

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	21922100184		
法人名	(株)三城ケアサービス		
事業所名	グループホーム ダンデライオン(東ユニット)		
所在地	大垣市赤花町1丁目68番地1		
自己評価作成日	平成24年12月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2192100184-008PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2192100184-008PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年1月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様一人一人の心に寄り添うケアに日々心がけています。</p>
--------------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、明るいベランダを備え、広い畑が見渡せる地に建っている。開設2年目であるが、自治会や地域の理解も得、住民との交流を深めつつ、地域に密着した事業運営を行っている。近隣の総合病院と医療連携をとり、利用者の体調管理と家族の安心を得ている。食事作りは、調理担当者を配置し、利用者の希望の献立を調理に取り入れ、毎日の楽しい食事に反映している。また、日々のおやつ作りは、利用者から経験や知恵をもらいながら、一緒に笑顔で取り組んでいる。利用者は、日常的に自由な散歩や外出を行い、穏やかな表情で、生き生きとして暮らしている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(東ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を書くユニットの分かり易い場所に掲示し、スタッフが理念の共有を図り、ケアの実践に反映できるように心がけている。	「想い合い、認め合い、支え合い」という理念は、開所時に全職員で話し合っって作りあげている。職員会議や申し送りで理念を確認しながら、その人らしい暮らしに活かせるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩時などに地域の方々と挨拶を交わし、地域の方々と関わりを持つ努力をしている。また、施設の夏祭り等に地域の方の盆踊りでの参加を頂き楽しい時間を過ごす事ができ大変喜んでいる、今後も継続する努力をしたい。	自治会の理解を得、ホームの行事や様子を回覧板で地域に案内している。地域のボランティアを、盆踊り等のホーム行事に招き、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議で自治会長様やご家族に向けて、認知症の方々の独自の世界観や症状などをテーマにお話する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の近況や活動内容についての報告を行い、ご家族様との意見交流の場として参加して戴いている。また、意見がケアに反映できるよう、できるだけ質疑応答や意見交流の時間に重点をおいている。	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催している。ホームの活動報告や行事計画、運営上の課題を話し合っている。参加者からの意見や要望は、よりよいサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で地域包括センターの方に参加して戴き、施設の現状報告をお伝えしながら協力関係が築けるように努めている。また市役所介護保険課の参加もいただきご意見を戴くように努めている。	行政との関係は良好で、入居に関する事例等の相談やホームだけで解決できない困りごとなど相談している。行政へは、常に運営状況を伝え、互いに協力がし合えるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の対象になりうる行為を理解し、ケアに努めている。また、ユニットの扉や玄関を開放し、ご利用者様が自由に出入りできる環境でケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止に関する勉強会を、定期的に行い、全職員で共有している。外へ出たい利用者には、職員が付き添い、転倒などの安全策は、抑圧感の無いように工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で、具体的にどのような事が虐待につながるかの研修を行い、職員間の意見交換を踏まえ理解する事により虐待防止の徹底を図りより良いケアを実践する。		

岐阜県 グループホーム・ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月行う、職員会議の場で資料配布を行い制度に関する説明を行い、制度に対する知識を深め各職員の意識の向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問合せ、見学には十分時間をかけ説明、契約時にはじっくり時間をかけ施設の様子、サービス内容、利用料金について詳しく説明し、理解、納得して頂けるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様ご家族様には2か月1度の運営推進会議に参加いただき、質疑応答や意見交流の時間を設け、それらをケアや運営に反映させる努力をしている。	家族の面会が多く、家族と気楽に話しやすい雰囲気の中で意見や要望を聴いている。在宅時の話や体調面での話を通し、介護計画の見直しに結び付けたり、普段の支援に活かすよう家族の声を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外表や管理者が職員に声かけして意見を聞き、職員みんなで作り上げる施設になるように努力している。	毎月の職員会議には、代表者や管理者が参加している。職員からは、利用者の食事に関する意見やケアの意見を課題として取り上げ、利用者の生活がよりよいものとなるよう改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は適度に施設に出向き、雑談ベースではあるが個々の職員の勤務状況や思いを聞き取り、いつでも相談でき、対応できる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加できる機会を確保し、職員の意見を聞いて希望に合った研修に参加できる様に心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度行われるグルマネ、タキマネ、しゃべり場に参加することで、意見交換や交流、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様には1日でも早く施設での生活に慣れて頂き安全安心な生活が送れるよう、職員が寄り添い、同じ目線に立ち、気持ちをくみ取る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や、契約時に限らず、ご家族が不安に思っている事や要望をいつでも気軽に相談できるよう、職員の声かけなどにより良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご利用者やお家族様の思いや現状を細かく確認したうえで必要としているサービスを見極めるよに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様と安らぎのある生活を共に送る家族として、また人生の大先輩としての敬意を持ち互いに支え合う事が出来る関係を築けるように努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時や相談時に於いて、ご家族の協力が有ってこそ本人の安心した生活が成り立つことを丁寧にお伝えし、ご家族と職員で共に利用者を支えていけるよう良好な関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の人間関係や地域の方との関係を把握し、入所前に通っていた美容院へ引き続き通うことや、お茶のみ仲間の方との交流が継続できるよう、支援に努める。	親戚や近所の知人、仕事仲間などが気軽に訪れている。また、馴染みの喫茶店などに職員が同行し、懐かしい知人に会うなど、親しい関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の間で、利用者様同士の相性や性格について意見を交流し合い、職員が間に入るなどの工夫し、利用者様同士が気持ちよく過ごせるようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今日まで事例は無いが、退所の際には、本人や家族に対し、これからも相談に応じる事が出来る旨をお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や嗜好の調査など、施設生活の関わりの中で情報の収集に努め、利用者やご家族の希望の把握に努めている。	日々の生活の中で、本人の得意なこと、趣味や嗜好を聴いて、暮らし方の中に活かしている。ミシンがけや縫物の得意な人には、持てる能力を十分に発揮できるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入所以前の生活の様子や環境状況を、ご家族、前任ケアマネにお話を伺い把握できるように努めている。また、日常での施設生活を通じ情報収集し、スタッフ間で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の利用者様の様子や職員の気づきを記録し、職員間で情報の共有をし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の現状とケアの在り方について洗い出し、それぞれの意見が反映したプランが出来るように努めている。	利用者の担当者が中心に、職員の意見や気づきを、介護計画に反映させている。本人・家族の希望は、担当者が直接話を聴いている。身体面や心理面の状態を、毎月モニタリングを行い、必要があれば、柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご利用者様の様子や職員の気づきを、ケース記録に記入し、日々の申し送りにより情報の共有に努めている。また、具体的な生活援助内容を記載し、実践に生かすように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様が帰宅したい、また、受診したい等の希望が有ればご家族様が対応できない場合は、職員が代行して支援している。		

岐阜県 グループホーム・ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関する情報の収集に努め、利用者1人ひとりにあった資源が活用できるよう支援している。また、馴染みの生活が継続できるよう、地域や人との関係継続を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を始め、各利用者様には長年の主治医が有れば、入居後も継続して受診できるように支援している。また、往診時や急変時には利用者様の様子を正確に伝え指示を仰いでいる。	それぞれの、かかりつけ医に、家族が同行し、受診している。医療情報は、必要に応じ、関係者が確認できるようにしている。歯科や整形なども家族が同行しての受診が基本であるが、都合のつかない場合は、職員が同行し、家族に引き継いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関や利用者様の主治医や看護師に体調の変化や気づきを正確に伝え相談に応じて頂くことで利用者様が安心して診察や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入院時には、管理者や相談員が病院に出向き、医師や看護師に現状をお聞きし、退院後の施設生活を送れるように情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設が行う看取りに関する方針を説明し、利用者や家族にご理解を頂いている。看取りを行う段階において再度説明しご理解を頂いたうえで出来る限りの支援をしている。また、運営推進会議などを通じて地域の方にもご理解を頂いている。	重度化・終末に関しては、契約時に説明を行い、常時医療行為が必要となった時点で家族や主治医と話し合うとしている。看取りに関しては、時期が近づいた時点で、本人と家族の希望を聞きながら、できる限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃よりご利用者様の急変や事故発生に対し些細な事でもヒヤリハットととして報告をし、意識の向上に努めている。応急処置の方法について、ユニット会議で取り上げ対応できるように努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を計画実施し職員全員で非常災害時を想定して役割を確認している。また、地域の方に協力していただけるよう、ホームの設備や実態を出来る限り詳しく伝えている。	年に2回以上の避難訓練を実施している。敷地内への誘導や通路確認、初期消火などを行っている。連絡網を掲示し、自家発電装置や食料品、薬などの備蓄を備えている。地域住民との、防災意識の向上を目指している。	地域住民と共に訓練を行い、地域全体で防災・災害を考える場づくりと、防災意識の向上に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者の人格を尊重し、職員が目線を合わせ、柔らかい言葉かけを心掛け、気配りできるように努めている。	利用者のトイレ時や排泄時に個別に対応し、声掛けをそっと行うなどを心がけている。入室の際のノックや夜間見回りの際にも、さりげない見守りを行い、一人ひとりの状態や好みに気配りした対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の隣に座り、利用者様が自分の気持ちを話しやすいふいんきづくりを心掛けている。また、日常生活の色入りの場面で、自己決定できる様な声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはご利用者様本位にて過ごして頂いているが、生活にメリハリをつける為にも体操、レクリエーションの参加も体調を把握しながら促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日起床時より、ご利用者様の好みの洋服を選んで着て頂いたり、アドバイスなどを行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の暮らしの中で、好みのものをお聞きし、出来るだけ好みに合った食事を提供できるように努めている。また、食器拭きや下ごしらえ、おしぼり畳み等、個々の力が発揮できる促しをしている。	食事の際のおしぼりたたみや、お茶パック作りなど、利用者のできること、好きなことに合わせ、手伝ってもらっている。食べたい献立を聞いて、日々の調理に加え、職員も同じテーブルで談笑しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、栄養状態が把握できるように努めている。また、食事の摂取にかかる時間やお代わり等は、本人ペースを優先している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様本人の残存能力が活かされるよう、歯磨きやうがいなどをご自分でして頂けるよう心がけている。また、義歯の取り外しや装着には支援を行っている。		

岐阜県 グループホーム・ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンの把握をし、その人に合った支援が出来るように、失禁パンツや布パンツに替えて支援している。また、尿意が無い方もトイレ誘導にてトイレでの排泄をこころみている。	排泄チェック表を基に、こまめにトイレ誘導を行い、排泄の自立度を高めている。また、リハビリパンツから布パンツに替えて、自信を持って生活ができるよう、支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天ゼリーや、ヨーグルトなどを取り入れ、食事内容や、おやつ工夫をし、自然排便を促している。また、皆さんにラジオ体操やリハビリ体操に参加して頂き運動不足の解消が出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に際しては必ずご本人の意思確認や体調の確認をし午前、午後の時間に関わらず入浴して頂けるように努めている。また、利用者毎にお風呂の清掃を行い清潔で気持ちの良い入浴を楽しんで頂けるようにしている。	基本は週2回の入浴であるが、希望があれば、毎日でも入浴可能な職員配置としている。身体状況により、2人介助による入浴や、シャワー浴など、その日の状態により柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠して頂くため、日中の活動を促すと共に夜間の入眠時間は無理強いせず、出来るだけ個々に合わせた入眠時間が取れるように対応して支援していく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬担当者が中心となり、ケース記録ファイルに薬情をとり、薬の情報職員が共有し合い、症状の変化は記録に残して職員が確認できるように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読者や俳句、散歩など利用者が自分らしく暮らせるように支援している。また、一人ひとりの能力に合わせ、食器拭きや新聞折り、掃除等を職員が促して参加して戴いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には施設周辺の散歩に出かけている。また、ご家族様、ご兄弟様との外出、外食等の支援も行っている。	利用者一人ひとりの希望に沿い、スーパーや薬局などへ買い物に行っている。行楽地は、花見、菖蒲園、バラ公園などがあり、その他にも歩いて近隣の桜見物に出かけている。近隣の散歩は日課のようにしている。	日常的な外出・散歩にとどまらず、家族の協力も得て、利用者が行きたい場所・会いたい人・懐かしい所へ出かける機会が持てるように期待したい。



岐阜県 グループホーム・ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様との話し合いながら、利用者様の希望や能力に応じて、買い物時の支払い等を本人ができる機会を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の要望や能力において、ご家族に連絡したいと言われた時には職員がダイヤルし直接ご本人がお話できるよう支援している。また手紙等に関してははがき等を用意しご利用者様に促し、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには職員と利用者様が共同制作した作品等を飾り季節感のある空間づくりに努めている。 また、テラスには椅子、テーブルを設置し屋外でお茶等が呑めるスペースを作り、職員と共に利用して頂いている。	リビングは広くゆったりとして、南側からは明るい日差しがさしている。キッチンや洗面所も一体構造で、利用者が、自分で動作を行いやすい造りになっている。すぐ近くを国道が通っているが、騒音の影響もなく静かな環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の生活の中で、利用者同士の関わり合いなどを把握し、食事の席やソファの配置などに配慮し居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ご利用者様の居室には、ご自宅で使い慣れた物を配置し、本人が安心して生活できるように配慮している。	居室には、自宅で使用していた椅子や家具を置いたり、家族の写真や本人の手芸品などを飾り、個性あふれる居室となっている。自分の居室を間違えないように、顔写真入りのユニークな表札をかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全安心な施設生活を送って頂くため、居室出入りに鈴を付けたり、シルバカーに鈴を付けたりし安全を心掛けた環境整備を行っている。		